

女子大学生を惹きつける LINE の魅力と危険

A Report on the Way an Attraction and Risks of LINE in Female University Students' Life

○佐藤佳奈 (Kana Sato), 角田真二 (Shinji Tsunoda), 向後朋美 (Tomomi Kougo)

阿部史 (Fumi Abe), 井上久美子 (Kumiko Inoue), 泉直子 (Naoko Izumi)

十文字学園女子大学 (Jumonji University)

1. 目的

著者らは、スマートフォン(以下、スマホ)などの情報機器使用者の急速な増加に伴い表出てきた多様な問題を解決することを目指している。女子大学生の生活におけるスマホなどの情報機器の使用実態を調査し、本研究では LINE(ただし、必要に応じて Twitter も含める)に限定して考察した結果を、LINE と一体化した「女子大学生の1日」として描いた。

今後、情報機器に関わる生活行動の詳細な分析結果に基づき、QOL や健康状態の向上を最終目標とし、段階的な他のアセスメントを加えた考察を行い、問題解決のためのプログラムの立案を進める予定である。

2. 方法

女子大学生のスマホなどの情報機器の使用実態について予備調査を踏まえ、2015年12月に本調査を行った。同年7,8月に主旨の説明を受けた後に自らの意思で回答した325人を対象とし、そのうち303人の有効回答を解析対象として表計算ソフトで統計処理を行った。

LINE, Twitter の一瞬のチェックは、使用者の主観であり、プロバイダも物理的に把握することは不可能で、貴重なデータと考える。

本調査では、生活・健康状態、使用頻度の高い情報機器、情報機器の使用頻度と目的、依存状態の項目を調査したが、ここでは Q4-2 のうちの LINE の使用実態に限定して分析し、日常生活での効果的なスマホ利用に向けた考察を行う。

3. 結果と考察

一日の生活の流れを15の時間帯に分け、LINEの「チェック」、「書き込み」のための情報機器の使用状況を「一瞬/短時間/長時間」の3つの選択肢から回答してもらった。その結果を表1に示す。なお、一瞬/短時間/長時間使用している人数の合計の全有効回答数(303人)に対する割合を%で表し、以下ではこれを「使用割合」と呼ぶ。

(1) 日常生活での LINE の使用割合の高い時間帯

「夕食後～就寝前」(91.1%)、「空き時間(1人)」(91.7%)、「移動時間(乗物)」(88.1%)がほぼ同じ数値で上位となり、次いで、「空き時間(友達と一緒に)」(76.6%)、「帰宅～夕食」(76.6%)である。「空き時間(友達と一緒に)」以外

はどれも1人で過ごす時間である。更に詳細に見たとき、長時間使用している割合が多い時間帯は「空き時間(1人)」(29.0%)である。なお、LINE と Twitter の使用時間帯は両者とも変わらず、Twitter の利用方法はチェックのみの割合が書き込みの倍近くとなる結果となった。

(2) 一瞬 LINE を見る頻度の高い時間帯

一瞬のチェックだけに限定すると「起床～朝食前」(44.9%)が多い。就寝中の会話やメッセージの確認などのためだと考えられる。

次に多いのが、「空き時間(友達と一緒に)」(32.3%)であり、1人の場合と比べると長時間の使用は少なく一瞬の使用が増えている。

(3) 食事時間と LINE の使用割合

食事時間帯の中では「昼食時」(64.4%)の使用が最も多い結果となった。

「朝食時」は朝食を抜いている可能性もあるため低い数値となったと考えられる。

「夕食時」(17.5%)も使用割合は低いが前後の時間帯が高いため、環境や場所が関係していると考えられる。

食事中はどれも一瞬のチェックの割合が多い。

(4) 勉学・アルバイトと LINE の使用割合

「授業中」(57.1%)、「勉強時」(46.2%)ともに一瞬の使用の割合が多い(各々27.4%, 23.1%)。このことからスマホは机上に置いてあり、すぐにチェックが行える状態であると考えられる。本学での講義中にも見られる光景である。

一方、「バイト中」は原則としてスマホは使用できない環境がほとんどであるためか、最も少ない使用割合(4%)となっている。今回アルバイトをしている人数までは調査していないが、「バイトの休憩時間」(60.7%)に使用する割合が高いのは、「バイト中」の反動であると予想できる。また、アルバイト先との連絡手段の1つとしてLINEが使用されている場合もある。

(5) 入浴中・歩きながらの LINE・twitter の使用と一日の情報機器全体の使用頻度の関係

入浴中にLINE, Twitter を少しでも使う群259人と全く使わない群44人を比較すると、Q4-2の一日の情報機器の使用頻度の合計点(一瞬使用1点、短時間使用2点、長時間使用3点として計算)が、67点と45点で有意差があった。また、歩

きながら LINE, Twitter を少しでも使う群 222 人と、全く使わない群 81 人では、一日の情報機器の使用頻度の合計点が、67 点と 41 点で有意差があった。すなわち、入浴中や歩きながら LINE, twitter を使用する学生は一日の情報機器の使用頻度も高くなる傾向にあることが明らかで、「入浴中や歩きながら LINE, Twitter を使う学生はヤバイ」という筆者らの実感は、数値からも支持された。

4. 女子大学生のライフスタイルと LINE

調査で使用した 15 の時間帯の項目に合わせ、著者と本学の学生の行動を基に「女子大学生の 1 日の生活スタイル」を以下に示す。

起床時、すぐにスマホをチェックする。メッセージがあれば目を通し、必要であれば返信する。朝食を食べ、身支度を済ませ家を出る。

時間に余裕があれば移動中も通知が来ないか随時チェックする。電車に乗り目的地に着くまでの間は LINE でのやりとりや Twitter, ニュースサイトをチェックする。

授業中はスマホを机の上に置き、通知が来れば一瞬チェックをする。緊急性がない限り意識しつつも長時間スマホに触らずに放置しておく。

休み時間や空き時間は Twitter, ゲームアプリで時間を潰す。別の大学の友人と LINE でやりとりすることも多い。

昼食は友人と一緒に学生食堂で食べる。会話もするが時折スマホもいじっている。同じ机を囲んでいながら一言も発していないグループもよく見かける。

午後の授業も終わり、アルバイトに向かう。

アルバイト中、スマホはロッカーに置いてあるので、触ることはない。休憩に入るとまず通知が来ていないか確認する。アルバイトを終えて帰路に着く。

夕飯をアルバイト先で食べるときはスマホを操作しながらである。自宅での夕食では机の上に置くが、スマホはあまり気にせずテレビを見ながら食事を済ませる。

勉強時は時計代わりにスマホを机の上に置いている。通知は気になるので、チェックだけする。

入浴、身支度を済ませベッドに入る。その後は眠くなるまで SNS やゲームアプリをして、就寝する。

5. 結論

本稿では、調査結果の考察を踏まえ、スマホに支配された女子大学生の 1 日の生活スタイルを浮かび上がらせた。本稿の試みから、LINE の浸透が従来の電話、メールといったコミュニケーションツールを脅かす存在であることが明らかになったと言える。

同じ室内にいても、机を囲んでいても、LINE や SNS でコミュニケーションをとるなど、女子大学生や若者のコミュニケーションのカタチは変わり始めているのかもしれない。

文献

向後朋美, 井上久美子, 阿部史, 角田真二, 泉直子: QOL を考慮したスマートフォンに関するプリシード・プロシードモデルの応用, 情報処理学会研究報告 IPSJ SIG Technical Report, 2015-SPT-14, 20, 1-7, 2015

表 1 時間帯毎の使用状況

	Q4-2-1 起床	Q4-2-2 朝食時	Q4-2-3 移動電車	Q4-2-4 移動図書	Q4-2-5 授業中	Q4-2-6 空き時間	Q4-2-7 空き時間友達	Q4-2-8 昼食時	Q4-2-9 バイト中	Q4-2-10 バイトの休憩時間	Q4-2-11 帰宅時	Q4-2-12 夕食時	Q4-2-13 勉強時	Q4-2-14 入浴中	Q4-2-15 夕食後
人数	195	39	267	81	173	278	232	195	12	184	232	53	140	44	276
割合	64.4	12.9	88.1	26.7	57.1	91.7	76.6	64.4	4	60.7	76.6	17.5	46.2	14.5	91.1

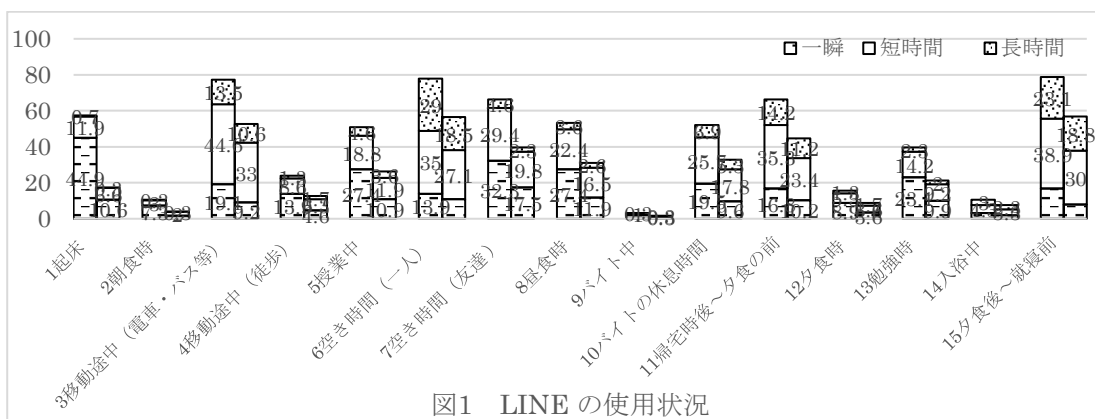


図1 LINE の使用状況

グラフ内の数値は、全体 303 人中の割合を%で示している。棒グラフ左はチェックの割合、棒グラフの右は書き込みの割合。